

## 1. 略歴

- 1995年4月 東京大学文学部附属文化交流研究施設助教授  
1996年11月 東京大学文学部附属文化交流研究施設教授  
1997年8月 同 大学院人文社会系研究科附属文化交流施設教授  
2004年4月 同 大学院人文社会系研究科言語動態学講座教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

言語学、ウラル諸語、ロシアの少数言語のテキストの電子化、コーパスを用いた文法研究

### b 研究課題 c 概要と自己評価

科研費（基盤研究）のプロジェクトを中心に、次のような研究活動を行った。

- (1) エストニア・タルト大学のコーパス言語学研究者と言語データやツールの交換を含む研究交流を行った。
- (2) フィンランド・トゥルク大学のマリ語研究者と言語データやツールの交換を含む研究交流を行った。
- (3) エストニア国会図書館の協力を得て、20世紀初めのエストニア語の言語資料（193万語）を電子テキスト化し、言語コーパスとして利用可能なようにXML文書化した。また、このコーパスを含むエストニア語のコーパスを複数用いて、エストニア語の研究を行った。
- (4) スウェーデン北部、トーネ川流域のフィンランド語系少数言語・メアンキエリ語のコミュニティーを訪問し、メアンキエリ語の言語資料を収集するとともに、学校などを訪問し、現地の言語事情を調査した。

### d 主要業績

#### (1) 研究報告書

「電子化された言語資料と個別言語研究」、2009.3

#### (2) 学会発表

「エストニア語の動詞 *joudma* の多義性について」、日本ウラル学会 35 回研究大会、2008.7.5

「エストニア語の動詞 *pruukima* 「必要だ；用いる」の多義性—コーパスと辞書の記述に基づく考察—」、日本言語学会 137 回大会、2008.11.29

「エストニア語の他動詞文における「接格+動詞 *mast* 形」構文」、日本ウラル学会 36 回研究大会、2009.7.11

「コーパスから見える統語的变化—エストニア語の不定詞構文—」、日本言語学会 139 回大会、2009.11.28

#### (3) 受賞

「Maarjamaa Risti IV klassi teenetemark」、The 4th class Order of the Cross of Terra Mariana、エストニア共和国政府、2009.2.23

## 3. 主な社会活動

### (1) 学会

日本言語学会、会計監査委員、2007～

Suomalais-Ugrilainen Seura [フィン・ウゴル学会]、一般会員、2007～

Suomalaisen Kirjallisuuden Seura [フィンランド文学協会]、一般会員、2007～

Societas Linguisticae Europae、一般会員、2007～

CONGRESSUS XI INTERNATIONALIS FENNO-UGRISTARUM」、国際委員、2008.1～

日本ウラル学会、理事、2008.1～2008.12

日本言語学会、評議員、2009.4～